

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000366		
法人名	株式会社道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじⅡ		
所在地	小樽市朝里川温泉 2丁目694-4 (電 話) 0134-54-0200		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】 (21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 5月 2日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	42 人 常勤 11人 非常勤 31人 常勤換 16.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	5階建ての 3~5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費他 20,000円 暖房費(10~5月) 8,000円
敷 金	有 () 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (2月 20日現在)

利用者人数	26 名	男性 2 名	女性 24 名
要介護 1	8 名	要介護 2	11 名
要介護 3	7 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.4 歳	最低 71 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、 中垣病院、 朝里整形外科・内科、 朝里病院 他
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉街にある5階建てのグループホームである。3階から5階が各ユニット、2階がミーティングルームや会議室などに利用されている。家族が宿泊できるようゲストルームも用意されている。敷地内に系列のグループホームやデイサービスがあり、交互に喫茶店(喫茶会)やレクリエーションを開くなどして利用者・職員とも交流している。内部研修も充実しており、毎月テーマを定め職員の育成を図っている。夜勤専門のスタッフの配置や、食事の副食を各ユニットで分担して調理するなど、職員の負担軽減にも配慮している。職員はケアサービスに専念でき、穏やかで優しく良好なサービスの提供につながっている。介護計画の作成や見直しもきめ細かく行なわれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における「課題」についても改善計画シートを作成してサービス改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者やフロアチーフを中心に職員全員が参加し作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催されている。また自己評価・外部評価についてもテーマに取り上げている。しかしながら、包括支援センターや地域住民の参加が少ないので、地域包括センター、地域住民、利用者家族等の参加を促進し、会議をより充実したものにされることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、重要事項説明書に外部の苦情受付機関を詳しく明示している。しかし、運営推進会議への家族の参加は少なく、アンケートの結果からも家族の意見を十分に把握しているとはいえないので、家族の意見をさらに把握できるよう、運営推進会議の参加を促したり、定期的な家族アンケートの実施などを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りやイベントなどで地域の方々と交流している。敷地内の庭に近所の方にも遊びに来ていただいている。ホームにも幼稚園児が遊びに来たり、趣味のボランティアの来訪もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人共通の理念があり、そのほかに5つのポリシーを定めているが、文言の中には地域密着型サービスに関する内容は掲げられていない。	○	運営理念やホーム独自の理念・方針などの中に、地域密着や地域との交流について掲げられ、今後取り組まれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念やポリシーは各ユニットの見やすい場所に掲示されている。また、業務の中で理念の実践ができるよう、毎月の内部研修で3回に1回の割合で理念を取り上げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやイベントなどで地域の方々と交流している。敷地内の庭に近所の方が遊びに来ていただいている。ホームにも幼稚園児が遊びに来たり、ボランティアの来訪があり交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者やフロアチーフを中心に職員全員が参加し作成している。前回の外部評価における「課題」についても改善計画シートを作成してサービス改善に取り組んでいる。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催されている。また自己評価・外部評価についてもテーマに取り上げている。しかしながら、包括支援センターや地域住民の参加は少ない。	○	地域包括センター、地域住民、利用者家族等の参加を促進し、会議をより充実したものにされることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の開催する勉強会や、グループホーム協議会に参加し連携をとっている。今後も積極的に情報交換を行なう方針としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時の報告のほか、受診報告、金銭報告を作成し、家族に送付している。また2ヵ月毎に発送している家族への金銭報告に利用者の近況報告を加えている。しかしホームだよりの作成頻度が少なく、内容についてもさらなる充実が求められる。	○	家族に送付するホームだよりについて、ほかのホームなども参考にしながら回数と内容の充実を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、重要事項説明書に外部の苦情受付機関を詳しく明示している。しかし、運営推進会議への家族の参加は少なく、アンケートの結果からも家族の意見を十分に把握しているとはいえない。	○	家族の意見をより把握できるよう、運営推進会議の参加を促したり、定期的な家族アンケートの実施などを今後期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなるべく少なくなるようにしている。職員のユニット間での異動はあるが利用者への影響が少なくなるよう、普段からユニット間の交流を深めている。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の内部研修を実施し、感染症、冬対策、応急処置、食中毒、理念などテーマを設定して研修をしている。グループホーム協議会などが行なう外部研修や実践者研修にも職員が参加しているが、入社1～2年目の職員の外部研修は参加機会が少ない。	○	入社1～2年目の職員にも外部研修の参加機会を与えられるよう、年度計画を立て、人材育成を行なう取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やフロアチーフに道内のほかのグループホームと情報交換を行なう機会があるが、地域の同業者との交流は見られない。職員は、ほかの業者と交流や情報交換を行なう機会が少ない。	○	今後、一般の職員も系列グループホーム以外の地域の同業者と交流できる機会を増やし、勉強会や相互訪問により、お互いのサービス向上に向けて取り組まれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の居住先への訪問も含めて、複数回面談を行ない、馴染みの関係となり、ホームを見学していただいた上で入居を決定している。食事やおやつ、レクリエーションと一緒に楽しむなど体験利用も行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を踏まえて日常の対等な立場を心がけている。習字や料理の下拵え、片付け、掃除の昔ながらの手順を教えていただくなど、利用者から学んだり、一方で職員は利用者の困難な場面を支えるなど、対等な関係が築けている。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族に思いや意向を詳しく聞き情報シートを作成している。3ヵ月に1回のアセスメント時も職員で意見を出し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を踏まえ、状態や特徴を考慮した具体的な介護計画を作成している。詳細なサービス計画書を作成し、職員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月に一度見直しが行なわれている。ケアチェック表でアセスメントを行ない、サービス担当者会議の議論のもと、見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問の理美容や整体が利用できる。またユニットとは別の階にゲストルームがあり、家族が宿泊できるようになっている。敷地内系列グループホームやデイサービスのレクリエーション活動に参加するなど交流を持っている。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。特に希望がなければ協力医がかかりつけ医として日ごろから協力体制をとっている。また受診記録を作成し、その都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状ではホームでの看取りは難しく、その方針を利用者・家族・職員とも共有している。家族に十分説明しており問題は発生していない。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っている。利用者一人ひとりのファイルの記入においても注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく利用者のペースに合わせた生活支援を行なっている。入居前の利用者のペースで起床、食事、散歩など、利用者の体調や希望に合わせた時間で支援している。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に楽しく会話し、食事をしている。食事の時間に静かな音楽をかけリラックスした雰囲気を作っている。3ユニットが協力しておかずを作りあい、食卓の彩を豊かにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度の入浴を基本にしている。希望があれば午前入浴も可能で、入浴の長さも希望に沿っている。拒む方や体調の悪い方は、足浴や清拭するなどの対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや掃除、洗濯物干しを手伝っていただくほか、レク活動として裁縫、習字、お茶会などで楽しんでもらっている。ユニット間の交流も活発で、毎週各ユニットが交代で喫茶会を開催している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の中庭や畑で散歩したり、年に2回程度のバスによる外出行事を行なっているが、全体的に通院以外の外出機会は少ない。	○	日常的な外出機会の充実と、年間計画を立て外出行事の回数を増加させることを期待したい。外で歩くことが難しい場合は、車でドライブだけでも良いので、今後可能な限り取り組まれることを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階の入り口ドアに鍵はかけておらず、エレベータの乗降も自由に出来る。また1階の玄関も日中は鍵をかけていない。		

小樽市 グループホームつつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき昼夜を想定した避難訓練を行なっている。災害時における住民や近隣施設とホームの協力関係はまだ築けておらず、職員の救急救命訓練の受講も十分とはいえない。	○	運営推進会議で災害時の住民との協力体制について、話し合われることを期待したい。また、職員全員の救急救命訓練の受講や防災備品（水、非常食など）の用意も期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は運営法人が一括で作成し、管理栄養士のチェックを受けている。カロリーや栄養バランスも概ね把握されている。介護記録に食事や水分の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く清潔に保たれ、温度や湿度にも配慮している。季節に合わせた装飾を行ったりして生活感、季節感が得られるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の自由な馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。居室の内装は画一的なものではなく個性が尊重されている。		

※ は、重点項目。